

も？」に対する「当たり前だよ」の答え。私には二人の障害児、どうして育てたらいいのと新生児室の医師に尋ねたら「普通でいいです」。今は私は決して自分から身を引かないことをモットーに生きていく、と当たり前前の言葉がなぜか身に伝えました。

そして、大阪市の石田先生は、育成会活動の停滞、若いお母さんが少ない、【課題はいつばいあるはずだ、見えないのか、魅力がないのか】。そして、今、何をしなければなら

ないだろうか、方向性を示さなければならぬ。最低限度の生活ではなく、本当に個人として尊重され、地域の中で安心して暮らせるように、もっと高い目標設定が必要、だろうと言われました。その他にも沢山の課題を頂きました。最後に、大阪府の溝邊さんは本人の立場から、家庭が苦しくてガス・水道が止まったり、食事も食べられず辛かつ

た事、いじめに合ったり、ものを盗んだと言われたり、信頼を寄せた先生にも不信感を持った時があったと話されました。「今は彼氏もでき人も信用できるようになり、人からも信用され仕事を楽しくできます。みんなも、恋をし、働いて欲しい」で終わりました。

⑧第六分科会 つなぎあい
(育成会活動の今に参加して
福島第一育成園

糊井 千恵子

滋賀県大津市で行われた全国大会第六分科会に参加しました。沢山の人達が全国各地から集まり、つなぎあいの参加する分科会へと、会場はたちまち埋め尽くされました。

施設解体がいわれるなか、地域の不理解もあり在宅か、施設入所しか選択肢がなかったとき、本人やその家族にとって施設は安心して生活していける場でした。

少しずつ地域の支援やつながりもよくなつて、施設福祉、家族福祉から地域福祉、在宅福祉と流れが変わり始めましたが施設はまだ必要ではないでしょうか。

高齢者社会のなか、施設の中には高齢者施設への移行を促す所もあるが、育成会は「契約をきつちりとすればそういう事は言わない」と副島理事長が言われ、心強い思いがしました。

あたりまえの生活ができるように、障がいのある団体、社会福祉法人、NPO法人他と支援を深め「つなぎあい」を広める社会にすることが大事だと思います。又、重度であつても生活ができるよう、親離れ子離れに慣れていくこと、すべてを支援するのではなく一人一人のニーズをよく見極めて必要な支援だけをするのも大切ではないでしょうか。障がいがあつても、健常者と同じ様に普通の生活を

していくという夢もあり希望もあるのですが、施設を出て地域で暮らすにはまだまだ課題も多く不安が残ります。

一日目の朝は雨が降っていましたが、会場に着く頃にはその雨も上がり、会場のホールから見える琵琶湖がきらきら輝き、対岸に見える景色が大変綺麗でした。

隣り逢わせになった人、しばらく会っていなかった懐かしい顔このような出合いを明日へとつなぎたいと思います。又、来年お会いしましょう。お疲れ様でした。

⑨第七分科会

わかちあい(障害者の権利

条約)に参加して

福島第一育成園

山口 チトセ

十一月十四日(土)から十五日(日)の二日間、滋賀県立芸術劇場琵琶湖ホール他に開催されました、母親三人

から始められたと聞く親の会に初めて参加させていただきました。

第七分科会「わかちあい(障害者の権利条約)」に出席しました。午前中の最初に、糸賀一雄先生の近江学園を創設された頃の映像を見せていただき、懐かしい出合いに感動したものです。

分科会の基調報告者DPI障害者権利擁護センター所長金政玉氏より二〇〇六年十二月国連総会において採択されるまでの流れと、日本政府は二〇〇七年九月に署名しているものの条約批准は？現在、世界で七十ヶ国が批准をしているが日本はしていないと聞きました。さらに金氏は「障害者は歴史的に差別されてきました」社会の中で日常的に能力がない、役に立たない、と言われてきました。戦後新しい憲法ができて、国民は法の下において平等と言われていますが、本当に平等でしよ